

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-15470

(43)公開日 平成5年(1993)1月26日

(51)Int.Cl.⁵

A 4 7 K 7/00

識別記号

1 0 2

庁内整理番号

6654-2D

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 2 頁)

(21)出願番号 特願平3-174220

(22)出願日 平成3年(1991)7月16日

(71)出願人 000004503

ユニチカ株式会社

兵庫県尼崎市東本町1丁目50番地

(72)発明者 今西 修之

大阪府高槻市弥生が丘町48-9

(72)発明者 丸山 尚夫

兵庫県尼崎市東園田町6-46

(74)代理人 弁理士 森本 義弘

(54)【発明の名称】 おしぼりの製造方法

(57)【要約】

【目的】セルロース系繊維不織布や紙のおしぼりを湿潤と同時に着色することができ、工程を簡略化でき、コストダウンを図る。

【構成】セルロース系短繊維に直接性を有する染料を含む水溶液をセルロース系繊維不織布もしくは紙に含浸させた後、水蒸気透過性 $100\text{g}/\text{m}^2/\text{hr}$. 以下であるフィルムにより密閉包装するおしぼりの製造方法。

BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 セルロース系短繊維に直接性を有する染料を含む水溶液をセルロース系繊維不織布もしくは紙に含浸させた後、水蒸気透過性 $100\text{g}/\text{m}^2/\text{hr.}$ 以下であるフィルムにより密閉包装することを特徴とするおしぼりの製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、セルロース系繊維不織布もしくは紙からなるおしぼりの製造方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 セルロース系繊維不織布や紙の使い捨ておしぼりに着色するには、予め不織布や紙を染料や顔料などで染色などの方法で着色しており、それぞれを湿潤させてから包装している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 このように従来のおしぼりは、不織布や紙の状態ですみ染色などにより着色しておかなくてはならないため、製造工程が煩雑であり、コストもかかるという問題があった。

【0004】 本発明はこのような課題を解決するもので、セルロース系繊維不織布や紙のおしぼりを湿潤と同時に着色することができ、工程を簡略化でき、コストダウンを図ることを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明は、セルロース系繊維に直接性を有する染料を含む水溶液をセルロース系繊維不織布もしくは紙に含浸させた後、水蒸気透過性 $100\text{g}/\text{m}^2/\text{hr.}$ 以下であるフィルムにより密閉包装することを特徴とするおしぼりの製造方法を要旨とするものである。

【0006】 本発明のセルロース系繊維不織布や紙とは、使い捨ておしぼりに使用するような通常のレーヨンや木綿の不織布およびバルブからできた紙全般であって、またセルロース系繊維に直接性を有する染料とは、セルロース系繊維に対し高い親和力を有する染料を言い、例えば直接染料、反応染料、酸性染料、カチオン染料に代表される水溶性染料である。

【0007】 本発明の目的を達成するには次の方法による。セルロース系繊維不織布や紙をおしぼりに適した大きさに切断後、上記染料から選択した所望の色目の染料を溶解した水溶液で湿潤させる。その際、水溶液の量は、セルロース系繊維不織布や紙の重量の60~300%の量が好ましい。60%より少ないとおしぼりとしての機能を果たさず、300%より多いと水溶液が滴ってしまう。染料の量は色目にもよるが、セルロース系繊維不織布や

紙の重量の5%以下が好ましい。染料の量が多すぎると、セルロース系繊維やバルブに完全に染着されず、おしぼりとして使用した際に手や衣服を汚染してしまう。

【0008】 水溶液を含浸させた後、水蒸気透過率が $100\text{g}/\text{m}^2/\text{hr.}$ 以下のフィルムで包装して完了する。水蒸気透過率が $100\text{g}/\text{m}^2/\text{hr.}$ を超えると保管中におしぼりが乾燥してしまい好ましくない。包装したおしぼりは、使用するまでに12時間以上置くことが望ましい。時間が短すぎると、染料がセルロース系繊維やバルブに完全に染着されず、おしぼりとして使用した際に手や衣服を汚染してしまう。以上述べた本発明の方法によるおしぼりは、別工程としての染色工程を必要としないにもかかわらず、染色品と同等の堅牢度を有する。

【0009】

【作用】 本発明の方法によりおしぼりの湿潤と着色が同時に行なえる理由としては次のことが予想される。おしぼりの湿潤と同時にセルロース系繊維あるいはバルブに付与された染料は、繊維が湿潤状態にあるために染料水溶液から徐々に繊維に吸着され、次いで繊維内部に拡散していく。そのため長時間の後には、染料が繊維の内部に全て拡散吸着してしまい、すみ染色したものと同様の堅牢度を有したおしぼりになると考えられる。

【0010】

【実施例】

実施例1

目付け $60\text{g}/\text{m}^2$ でビスコースレーヨンを素材とし、単糸繊維度が3デニールのレーヨンスパンボンド不織布を $20\text{cm} \times 25\text{cm}$ にカットし、この不織布に不織布の200%の重量の直接染料の水溶液（濃度0.02% KAYARUS SUPRA BLUE BWL 日本化薬（株）製）を均一に含浸して、厚さ $15\mu\text{m}$ のポリプロピレンフィルムで包装し、ヒートシールにより密閉した。24時間後におしぼりとして使用したが、色落ちもなく、カラーおしぼりとして十分機能するものが得られた。

実施例2

目付け $25\text{g}/\text{m}^2$ の紙おしぼりに、カチオン染料の水溶液（濃度0.3% KAYACRYL RED GL 日本化薬（株）製）を含浸させてローラーで120%に絞った後、折り畳んで $10\mu\text{m}$ のポリエチレンフィルムで包装し、ヒートシールにより密閉した。24時間後におしぼりとして使用したが、色落ちもなく、カラーおしぼりとして十分機能するものが得られた。

【0011】

【発明の効果】 以上のように本発明によれば、セルロース系繊維不織布や紙のおしぼりに水溶液を湿潤させながら着色も同時に行なうことができ、簡単な方法によりコストダウンを図ることができる。